

『ひと』(株)中原建設・中原主税専務に聞く／`くるみんプラス、長崎県内初認定／誰もが働きやすく誇りの持てる会社

注目記事

2025年04月23日（水）人物

人物



中原主税専務

仕事と子育ての両立支援に取り組む認定基準を満たした上で、不妊治療と仕事の両立支援に取り組む企業に対する『くるみんプラス』に、県内企業として初めて認定された(株)中原建設（対馬市）。くるみんの認定はじめ、誰もが働きやすい職場づくりの陣頭指揮に立つ中原主税専務取締役に話を聞いた。

—この3月に「くるみんプラス」に認定されました。申請のきっかけは

社員のみなさんがいるからこそ、社業が発展できたのですから、まずは、今いる社員が働き続けられる環境を整えなければと考えました。福利厚生を充実させることで、皆の満足度が高まり、働きやすい職場環境がつくれると思い取り組みを始めまし

た。今回の認定も、「不妊治療をしている社員がいる」という個別の理由ではなく、将来そうした状況があってもきちんと対応できる会社になりたいとの思いからです。

—長崎県誰もが働きやすい職場づくり実践企業認証制度（Nぴか）の最高位である`五つ星認証、も取得されていますね

弊社では、性別や年齢などのステレオタイプに捉われずに仕事をしてほしいと思っており、建築の現場代理人をしてくれている女性もいます。子育てや介護、そして、自分自身の学び直しなど、さまざまなライフステージに合わせた柔軟な働き方を応援しており、有給休暇の消化率も良く、ここ数年で育児休暇を取得した4人の社員のうち2人が男性です。さまざまな事情を相談しやすい、風通しの良い社内の雰囲気

を心がけていることも、離職率の低下につながっているのではないのでしょうか。

—これらの取組により御社の人材確保・定着状況は変わったのでしょうか

弊社では長く働いてくれる社員が多く、初めてくるみんの認定を受けた2021年以降、若手社員の離職者はおりません。若い世代の雇用については大きく変わりました。今年の春に高校卒業の新入社員が2名入社しましたし、過去3年間では大学卒業の若手計4名を採用しています。離島の対馬で若手採用が難しい環境にあるものの、福岡に支社があるため 対馬以外の現場を経験できることも魅力のひとつではないかと感じています。

—最後に今後の展開を教えてください

働くことが`我慢、ではなく`誇り、となる職場づくりをしていきたいです。モチベーションを高め、仕事に誇りを持ってほしいとの思いから、3Dレーザースキャナーや杭ナビ等のICT機器を導入して、スキルアップを図っています。

また、対馬には防衛関連をはじめ、やりがいのあるプロジェクトが多いため、ここでしか得られない成長や体験がきっと待っています。今後も建設業に誇りと情熱を持ち、対馬と本土の懸け橋となる企業となれるよう、社員と発展していくことを望んでいます。

【略歴】 中原主税（なかはら・ちから） 対馬市生まれ、49歳。佐世保工業高校では野球部に所属。卒業後は、福岡の測量専門学校を経て測量会社に就職。22歳で家業である(株)中原建設に入社。現在は専務取締役として経営の中核を担い、福岡支社の業務も統括。福岡と対馬を行き来する生活で「対馬で孫に会うのが楽しみ」。